

グローバル地域おこしセミナー

# マラウイ国草の根技術協力事業について

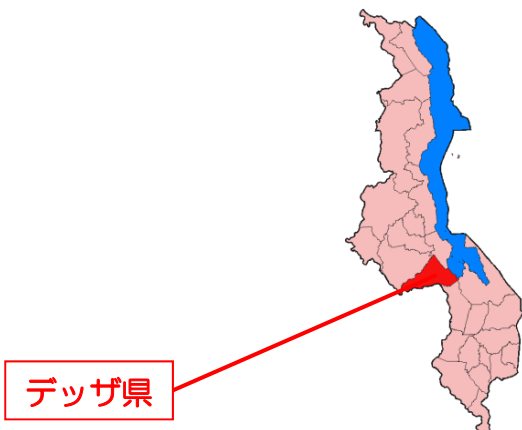
みやぎ国際協力隊プロジェクト

JICA草の根技術協力事業(Phase II)

「マラウイ国農業水利人材能力開発支援事業」

宮城県農林水産部農村振興課







# マラウイ共和国の概況

平成27年5月20日現在：外務省HPより引用

- ・面積：11.8万km<sup>2</sup>（北海道 + 九州）
- ・人口：1,636万人（2013年：世銀） / 言語：英語，チェワ語
- ・年降水量（過去10ヶ年平均）：**1,058mm** ※日本：1,700mm  
年間雨量の90%が雨季11～4月に集中，乾季5～10月
- ・国民総所得(GNI)/人：270USドル（2013年：世銀）  
日本：46,140USドル（世界開発指標2014）
- ・人間開発指数(生活の質)：0.410（174/187ヶ国，2013年）  
日本：0.890（2013年）
- ・絶対的貧困率（一日1ドル以下で生活する人口の割合）73.9%
- ・主要産業：**農業（主要作物：メイズ，タバコ，コーヒー，米，茶等）**  
**GDP**の約39%，輸出の約80%を占める  
総労働人口の約80%が農業に従事し，うち72%が1ha以下の土地しか持たない小規模農民
- ・JICA事業実績（2012年度まで）

技術協力	約378億円
無償資金協力	約625億円



## 【主要農産物:主食】

### (メイズ)



- ・マラウイその他近隣諸国の主食
- ・粉を練って調理したものが“シマ”
- ・粉にするほか茹でたり、焼いたりして食べられている



### (米)



- ・メイズとともに主食として注目
- ・商品作物として価値が高い
- ・JICAが灌漑施設や営農指導をしてきた長い歴史を持つ





# マラウイの抱える課題

## 食糧増産と農民の収入向上

### (これまで) 天水依存型農業



乾季を活用して雨季の分の食糧を補い  
収入を向上させる

課題 乾季における水の確保

食糧増産のための灌漑分野における  
体制整備と技術力向上が必要



乾季のデッサ県



小規模灌漑

## アフリカ・マラウイ共和国デッサ県と宮城県の技術協力（農業水利分野）

- マラウイで必要とされる技術は、現地で適用でき持続可能な「**適正技術**」。
- 協力に際しては、現地で入手可能な資材の活用や、現地の社会に適合した水利管理指導等の柔軟な技術及び調整力・交渉力等の総合的な応用能力が必要。
- 「適正技術」の移転・定着に向けて、JOCV派遣職員の現地活動に加え、県技術職員のサポート・連携により、マラウイの地方政府の技術者を育成。

### マラウイ国デッサ県の農業水利技術者の人材育成

～技術は人の中に宿り，受け継がれる～

パッケージ

#### ① JICA青年海外協力隊への現職派遣

2010～2015(3期6年) 全国初の地方自治体職員JOCV継続派遣

#### ② JICA草の根技術協力事業を活用した組織的支援

第1期：地域提案型 2011～2013年度

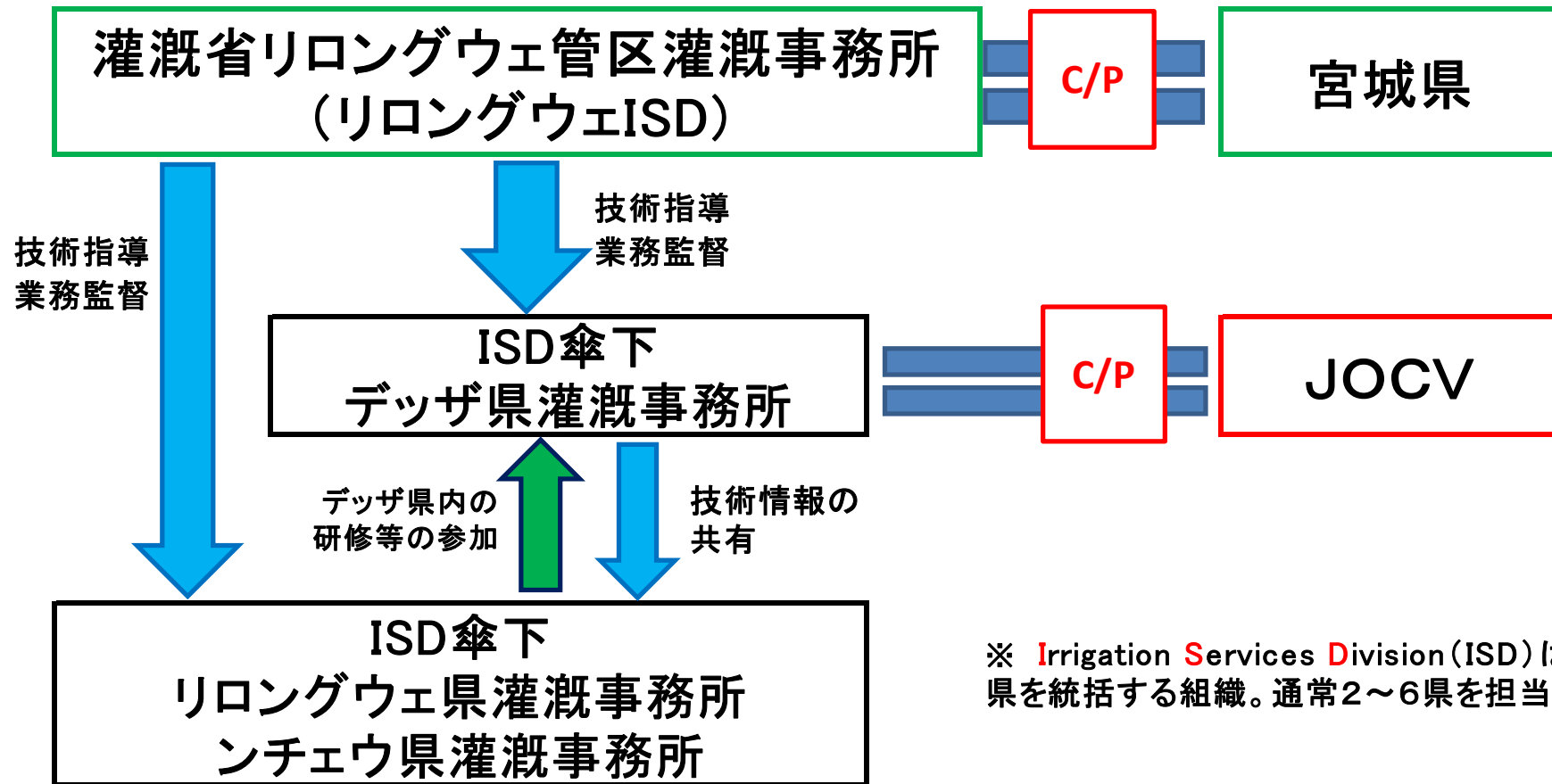
第2期：地域活性化特別枠 2014～2016年度

専門家派遣  
研修員受入  
資機材供与

青年海外協力隊  
・課題発見  
・技術支援

- ・マラウイ国の技術者自らが課題解決。
- ・日本の技術や仕組みを応用しながら、マラウイ国の伝統や社会に適合したものに改変し、持続可能な技術を移転する。

## ◎地方機関同士が連携して実施



- ◎デッサDIOはパイロット事務所として、農民への技術指導や県内モデル地区を建設。それらの成果を活用して、他2事務所への技術指導を事務所職員が行う。
- ◎宮城県とリロングウェISDは、ISD傘下のデッサDIO、リロングウェDIO、ンチェウDIOに技術指導を行う。
- ◎リロングウェDIOとンチェウDIOは、デッサDIOと技術情報を共有し、またデッサ県内で開催される研修等に参加する。

# みやぎ草の根技術協力事業の二つの柱

## I. 研修員受入れ

- ①宮城県で研修を企画・運営
- ②土地改良区等と連携（講師，研修フィールド）
  - ➡ 基礎の再確認
  - ➡ 現地に適合し，かつ持続性の高い技術

## II. 短期専門家派遣

- ①技術移転セミナー開催
  - ➡ 現地技術者を対象とした技術移転と定着
- ②現地調査
  - ➡ 事業の達成度と課題点の把握



# ○研修カリキュラム作成(1)

## ◎マラウイ政府が描く将来展望も踏まえた研修計画

### ①実践的な技術

▶▶▶ 測量技術, 施工管理や説明資料作成方法  
施設維持管理手法

### ②中期的課題解決のために

▶▶▶ 事業計画作成, 住民との合意形成事例

### ③長期的課題解決のために

▶▶▶ 土地改良区組織の導入

## ○研修カリキュラム作成(2)

④最新技術だけでなく伝統的技術を紹介

➡ 現地で入手可能な材料を使った技術

⑤オリジナルテキストの作成

➡ 帰国後職員研修や大学授業に自由に活用

⑥地域資源を活用

➡ 土地改良区や地元企業が講師として協力



- ・帰国後の研修員による現地職員への技術・知識の伝播
- ・宮城県内関係機関の国際協力に係る経験の蓄積



# 【研修員受入】

県内土地改良区及び民間企業と連携し、研修を実施



事業計画作成



測量実習



CAD実習



適正技術（粗朶工法）の製作実習



# 【研修員受入：2015年7月～8月】



いきもの調査



適正技術（粗朶工法）の製作実習



測量実習



県民との交流



## 【短期専門家派遣】

### ①技術移転セミナー開催

➡ ・広く職員への技術移転と定着

### ②現地調査

➡ ・派遣している協力隊員へのアドバイス  
・現状把握（達成度と課題点のチェック）





# 【2016年1月 短期専門家派遣】



日本で学んだ粗朶工法について技術の普及・定着のために精力的に活動している。  
現在2県で1箇所ずつ施工している。



# ○事業の現状評価

- ・相互利益のある関係性を構築
- ・人材育成の面でマラウイ政府から高い期待と評価

